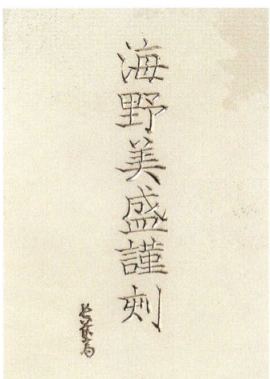
30　二代海野美盛・海野清《鳳凰図花瓶》一対

大正六年（一九一七）　銀／毛彫
各D 一九・三、H 四一・二

本作は大正六年に御大礼を祝して島津忠重より献上された。毛彫で表された鳳凰が向かい合うように配されており、左右ほぼ同図様であるが、わずかに変化をつけている。鳳凰の図様は御大礼への献上品という瑞祥としての性格があるものの、正倉院宝物の《鳥獣花背八角鏡》（北倉42）の鏡背文様を翻案したもので、大正時代後半から昭和初期にかけて流行する古典への回帰の早い作例として注目される。なお、本作に附属する台も床脚に繧繝彩色をほどこして鋲を打ったもので、これも同様に正倉院宝物を連想させる作りとなっている。

左右とも底面に二代美盛の銘が切られているが、箱には二代美盛とともに海野清の名前も記されていることから、少なくとも清が二代美盛の製作を補助したことがわかる。海野清（一八八四～一九五六）は海野勝珉の四男として生まれ、東京美術学校金工科を卒業した。大正八年（一九一九）に同校助教授、昭和七年（一九三二）に同校教授となった。同三十年には彫金家として初の重要無形文化財保持者となった。



・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治の彫金―海野勝珉とその周辺
三の丸尚蔵館展覧会図録No. 41

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成十八年九月二十三日発行

©2006, The Museum of the Imperial Collections